

共同訓練

盲導犬としての訓練を修めた犬は、視覚障がい者との共同訓練に入ります。

共同訓練は、視覚障がい者が盲導犬協会に宿泊し、盲導犬との生活に必要な知識や犬との歩き方を身につける期間です。盲導犬との歩行訓練だけでなく、フードの与え方やブラッシング、シャンプー、排泄など犬の世話や健康管理の方法も学びます。初めて盲導犬を使用する人はおよそ4週間共同訓練を行います。共同訓練は、人と犬が信頼関係を築くための大切な期間です。

歩行指導員の仕事は、盲導犬希望者に盲導犬との歩き方、大切なパートナーの性格や手入れの仕方、そして盲導犬を取り巻く社会環境や盲導犬ユーザーとしてのマナーなどを伝えていきます。盲導犬希望者が「見えない」ことで感じている様々な気持ちに耳を傾け、盲導犬とどのような生活を送りたいのかを、よく聞くよう心がけています。



山口 浩明さん

関西盲導犬協会 盲導犬歩行指導員

共に歩く

共同訓練を無事終わると、盲導犬ユーザーと盲導犬としての生活と歩行を共にしていきます。最初から、息がぴったり、というわけにはいきませんが、月日を重ねることで、パートナーとしての強い信頼と絆が生まれます。パートナーと共に歩き、暮らしながら、盲導犬ユーザーは自分らしい社会参加を実現していきます。

家ではご飯の時に大喜びで飛び跳ねているエルフォートですが、ハーネスをつけた仕事モードの時は危険を回避しながら、胸を張って堂々と歩き誘導してくれます。



砂原 嘉夫さん

日本ライトハウス 盲導犬ユーザー

家では普通のワンちゃんのようにキャピキャピの女の子ですが、ハーネスを着け外に出るとたちまちしっかり者に大変身！人混みもビシッと人を避けてくれるので、とても安心して歩くことができます。



矢口 みどりさん

東日本盲導犬協会 盲導犬ユーザー

ハーネスを外す日

盲導犬は10歳前後(人間でいえば60歳)を目安に引退します。別れは寂しいものですが、双方の安全の為、そして盲導犬の体調も考え、少し早めの引退をさせます。引退した盲導犬はボランティアの家で暮らしたり、育った盲導犬協会で十分なケアを受けながら暮らしますので、盲導犬ユーザーは、安心して次の盲導犬との生活をスタートさせることができます。ボランティアに引退後の様子を聞いたり、会いに行くこともあります。引退しても、絆が消える事はありません。

我が家に来た頃のノルディーはしっぽを下げてとても不安げでしたが、今ではいつもしっぽを振り、思いっきり走ったりし、とにかく元気に無邪気に暮らしています。そんな様子を見てみると、本当に今まで頑張ってきたのだなと胸が熱くなります。ノルディーには、我が家に来て良かったと思ってもらえるよう、愛情をたくさん注ぎ、共に生きていきたいと思っています。



佐藤 幸子さん・武さん

引退犬飼育ボランティア

キャリアチェンジ

訓練の過程で、盲導犬に向いていないと判断された犬(キャリアチェンジ犬)は、一般の家庭に引き取られていきます。この他、盲導犬PR犬、手足の不自由な人をサポートする介助犬として活躍する場合があります。キャリアチェンジ犬は、性格や能力が盲導犬には向いていなかっただけで、決してダメ犬というわけではありません。それぞれの性質にあった環境で一番幸せに暮らせる道を探す事も、盲導犬協会の大切な仕事です。



参照：「DUET」(全国盲導犬施設連合会発行)